

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田禎一郎

2017年7月2日（日）

主 題：「新しい契約の大祭司」

—時代は旧から新へ—

テキスト：ヘブル人への手紙 8章 1～6節

はじめに

- ・時代は大きく変化しています。最近、驚くことは若者たちが大活躍していることです。将棋の藤井聡太四段（14歳）は、30年ぶりに最多連勝記録を更新中です。今や将棋ブームとなり、かなりのヒートアップです。将棋盤や駒はどんどん売れているそうです。（失礼だが、かつては老人の趣味程度であったが）
- ・先週、大阪長居スタジアムで行われた日本陸上競技大会も盛会でした。そこでも大活躍したのは、やはり10代、また20代の青年でした。代表選手は今夏ロンドンで開催される、世界大会に参加されます。日本選手のレベルは向上し、世界大会で賞を得る道に近づいているようです。若者の活躍ですね。
「時代は旧から新へ」、確実に向かっています。
- ・ところで日本は法治国家として、これまで歩んできました。法律がなければ、国はバラバラになりますから、国が制定する法律はたいへん重要であります。
- ・1889年（明治22年）、大日本帝国憲法は制定されました。そして第二大戦後の1947年（昭和22年）、日本国憲法が制定されました。新しい日本国憲法が制定されて、前の大日本帝国憲法は無効となりました。（そして現在、憲法改正が国会で審議されているところ。）
- ・このように、憲法は改正されて行きます。改正されない憲法があるとするならば、「**完全な憲法**」でなければなりません。それは不完全な私たちの世界では、あり得ないことです。この第8章は、同じように神がモーセを通して与えられた律法も変更されたと教えています。
- ・すなわち、イエス・キリストという優れた大祭司が現れたのですから、それまでの古い契約は無効となり廃止されました（成就した、取り上げられた）。しかもこの**新しい律法は完全である**と、教えています。
- ・ところで、私たちは信仰生活をしているのはこの地上です。そこで私たちを日々生かす力は、この地上から来るものではありません。天から来るのです。ですから天のことがわからないと、私たちの信仰生活は力のないもの、世俗的なものになりかねません。
- ・したがって、天のことについてもっと知ることに強調点が置かれなければならないのは、当然でしょう。移り変わる世の中で生きる私たちは、永遠に変わることはない「天の御国」から力を得るのです。

- ・そういう意味で、知るためには学ぶ必要があります。学ぶということは、単に教室に座って知的学習をすることだけを意味するものではありません。著者は次のように言いました。

「キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、完全な者とされた」 5:8、9

- ・私たちは、体験によって学ぶことが多々あります。そして何よりも聖書を通し、祈りを通し、神はどんなお方か学ぶことができます。個人の生活だけではありません。礼拝や聖書研究会、祈祷会においても学べます。私の信仰の友人は、「**信仰生活において学ぶことを軽視したら、決して成長しない。**」、と言いました。私も確かにその通りであると思います。今日も私たちは、次の2点から学んでいきましょう。

大切なポイント

1. 真実の幕屋である聖所

- ・8:1 以上述べたことの要点はこうです。すなわち、私たちの大祭司は天におられる大能者の御座の右に着座された方であり、
- 8:2 人間が設けたのではなくて、主が設けられた**真実の幕屋である聖所**で仕えておられる方です。
- ・「**主が設けられた真実の幕屋である聖所**」とは、天の御国のことです。モーセは神から命じられ、幕屋を造りました。出エジプト
25:8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。
25:9 幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。
- ・幕屋は創造神が住むためのものでした。しかし、この幕屋も永遠の幕屋ではなく、「仮の幕屋」でした。最初の殉教者であったステパノは、次のように言いました。使徒の働き
7:44 私たちの先祖のためには、荒野にあかしの幕屋がありました。それは、見たとおりの形に造れとモーセに言われた方の命令どおりに、造られていました。
7:48 しかし、いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。預言者が語っているとおりです。
- ・幕屋は神が臨在される所で、聖い所です。天にある幕屋とは、キリストが今おられる天の御国のことです。そこは聖なる所です。その中心は礼拝です。
- ・礼拝は、主の日（日曜日）に持たれる礼拝だけではありません。個人礼拝とも言うべき毎日のデイポジションのこと、また何よりも私たちが毎日、礼拝という姿勢で生きることの重要性です。礼拝は神が中心で、神を崇めることです。ですから日々、私たちがどれほど神を意識して生活しているが問われます。
- ・そのように言いますと、ある人たちは言います。「牧師や宣教師のように神様のことを考えて生活している人はいいですが、われわれのように毎日この世にドブプリついている者にとって、神様のことなど考えていたら、仕事になりませんよ。」と。本当にそうでしょうか・・・。

- ・この考え方の背景には、二元論的な考え方があります。牧師は聖職者、一般の人は世俗的なものに携わっているという考えです。しかし考えてみれば、私たちはどんな人でもこの世の中で、世俗的なものの中で生きています。ですから、他人と比較する必要は一切ありません。
- ・しかし、生きる力は決して世俗的なものから来るものではありません。永遠の「天の御国」、つまり聖なるものから来るのです。その力によらなければ、失敗したり敗北するのは当然です。「天の御国」を著者は、「真実の幕屋である聖所」(8:2)と言いました。私たちが失敗したり、敗北しないように、大祭司キリストは執り成してくださっています。

2. より優れた仲介者キリスト

1) キリストこそ真の仲介者

- ・8:5 その人たちは、天にあるものの写しと影とに仕えているのであって、それらはモーセが幕屋を建てようとしたとき、神から御告げを受けたとおりのものです。神はこう言われたのです。「よく注意しなさい。山であなたに示された型に従って、すべてのものを作りなさい。」
- ・「その人たち」とはレビ族出身の祭司たちのことです。「写し」(コピー)はよく似たものですが本物ではありません。見本のようなものです。「影」とは同じように実体ではありません。
- ・8:6 しかし今、キリストはさらにすぐれた務めを得られました。それは彼が、さらにすぐれた約束に基づいて制定された、さらにすぐれた契約の仲介者であるからです。
- ・「さらにすぐれた契約」とは、8節から12節を指しています。ここで大切な言葉は、「仲介者」であります。1テモテ
2:5 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。
- ・神と人との仲介者は、キリストの他にはありません。人間はアダムの反逆以来、神との関係が断絶してしまいました。そのために人は神を模索し、あらゆる努力を重ねてきました。この世の中に多くの宗教が存在するのは、そのためです。
- ・しかしキリストによる以外、神と人との関係を正常に戻し得る道はありません。たとえ信仰の父アブラハム、イスラエルの偉大な指導者モーセ、あるいは釈迦、孔子であってもそれは不可能です。大祭司アロンでさえもできませんでした。キリスト以外ものはすべて、一時的であり、仮りのものでしかありません。

2) 私たちへの執り成し

(1) 大祭司のささげもの

- ・キリストは大祭司として、私たちが失敗したり敗北しないよう、天において執り成し

の祈りをしてくださっています。ですから、このお方を無視して、勝利の道を歩むことができると思うならば、全く意味がないことです。

- ・大祭司の務めは、いけにえを捧げて、神と民との仲介をすることです。イスラエルの大祭司は、代々にわたり律法に従い動物のいけにえを捧げてきました。それは、「天にある本物の聖所で、仕えることを表しているにすぎません。」
⇒著者はそれを、「写し」、「影」と呼びました。
- ・ところで、私たちはどんな捧げものを、イエスを通してお捧げしているのでしょうか。著者は次のように言いました。

7:27 **ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために、その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。**

- ・この聖句は二つのことを教えています。
 - ① **キリストは自分のために捧げることは不要**
 - ② **民も罪のために、いけにえを捧げることも不要**
- ・ですから、これまで繰り返し捧げられた動物のいけにえは、キリストが十字架で死なれた時、もはや不要となりました。キリストの十字架上の犠牲で、すべて十分となったからです。なんとという幸い、恵みではありませんか。
- ・ところで8章2節で、天におられるキリストは大祭司として仕えておられるとありますが、だれに仕えておられるのでしょうか。
⇒父なる神に、私たちのために、執り成しの務めをしてくださっているのです。
- ・この事を本当に知るならば、私たちは起きている時も、寝ている時も、キリストの御守りの中にあることが分かります。私たちがこの世の中で仕事をしている時も、キリストは私たちが誘惑に負けて失敗しないよう、祈ってくださっています。その助けなしに自力でやっていこうという考え方は、大損する生き方です。

(2) より優れた大祭司

- ・皆さん。私たちは天のことを聞いても、まだ行ったことがありませんから、ピンときませんし、分かりませんね。しかしキリストが天から降りて来られ、この地上でどういうことをされたかということは、4福音書に書かれています。それを学べば、キリストが今どのように私たちを、助けようとしておられるかが分かります。
- ・たとえば、**群衆（大勢の人々）がイエスのもとへ来ました。**
キリストのもとに連れてこられた病人で、癒されなかった人はいませんでした。キリストのもとに連れて来られた障害者で、癒されなかった人はいませんでした。キリストのもとに連れてこられた悪霊につかれた人で、悪霊を追い出していただけなかった人はいませんでした。悩み、苦しみ、罪を犯した人で、イエス・キリストのもとに連れて来られ、解決していただけなかった人は、一人もいませんでした。このように、**聖書を通してキリストを知ることができます。**
- ・今、私たちがどんな問題を持っていても、天におられる大祭司キリストのもとに来て、

キリストに訴えるなら、キリストは必ずあなたの問題を解決できるお方です。

- ・少し考えてみてください。仮りの話しであります。約2000年前、イエス・キリストはガリラヤにおられました。イエスはガリラヤを愛され、多くのわざを行われました。もし、私たちがイエスに会いしたいと願うならば、ガリラヤに行かねばなりません。しかも世界中から問題をかかえた人が集まってくるならば、私の順番はいつになるのでしょうか。自分の番がくるまで、長い間待たねばならないでしょう。
- ・しかし今は違います。天におられるキリストには、いつでも近づき、悩みを訴えることができるのです。しかもキリストは何語で話しても通じます。電話なら「お話し中」ということもあります。祈りにおいて「お話し中」はありません。キリストはいつでも、私たちの訴えを聞いてくださいます。この方こそ、「より優れた大祭司」です。神と私たちの真の仲介者です。
- ・イエス・キリストが来臨された目的は、「天の御国」の実現のためでした。イエスは公生涯の中で、「天の御国」について、何度も語られました。私たち聖徒には、「天の御国」を地上の生活において味わうことが許されています。「天の御国」への招待こそ、神の願いです。イエス・キリストは、神と私たちとの仲介者となられ、今、天で執り成してくださっているのです。私たちは感謝しようではありませんか。
- ・では、私たちはどのように、「天の御国」を味わうことができるのでしょうか？ ⇒主のご隣在によってです
主の前に心静め、主のお声を聴くことなのです。主はある時は弱さの中で、痛みの中で、理不尽と思えるような中で、静かに語りかけてくださいます。そして主のご隣在を覚えることができます。

ま と め

主 題：「新しい契約の大祭司」

—時代は旧から新へ—

- ・8:6 しかし今、キリストはさらにすぐれた務めを得られました。それは彼が、さらにすぐれた約束に基づいて制定された、さらにすぐれた契約の仲介者であるからです。
- ・今日、私たちは「時代は旧から新へ」というテーマで学びました。旧約聖書時代は終わり、新約聖書時代に入り、神の祝福である「天の御国」を味わうことができる時代となりました。恵みによって、古い律法から解放された人の特権です。ハレルヤ！ 私たちは次の点を確認しましょう。
 1. 時代は、旧約から新約に入った
 2. 聖徒には「天の御国」を味わう特権がある
それはただ仲介者である、優れた大祭司イエス・キリストによります。

* God bless you!